

生ける化石「カブトガニ」!

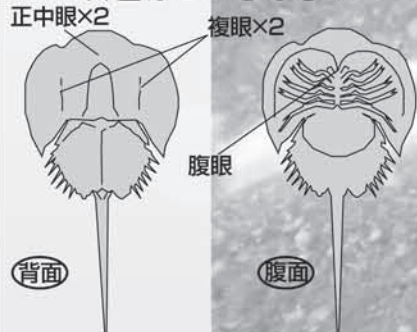
★カブトガニってどんな生き物なの?

☆「カニ」なのにカニじゃない!?



実はカブトガニはカニの仲間ではなく、「クモ」に近いそうです。

☆目が5つもある!?



2つの複眼のほかにも、光を感じる正中眼が2つ。腹側の腹眼が1つあります。



☆絶滅の恐れがあるって本当!?

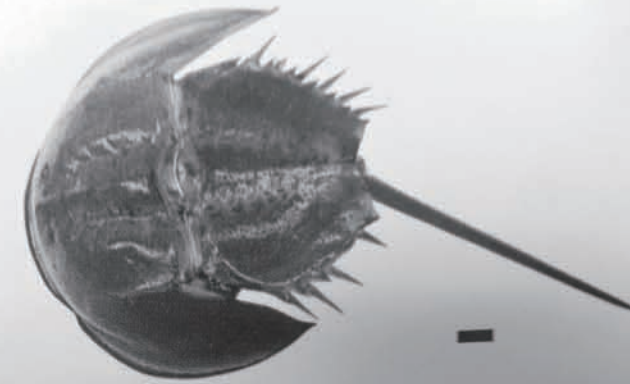
カブトガニは環境省でも絶滅危惧I類に指定されており、近い将来、非常に絶滅が心配されている生き物です。

☆カブトガニが人類を救う!?

カブトガニの血液には毒素を見つける成分が含まれているため、食中毒などを引き起こす菌の検査に使われています。また、様々な医療でも欠かせないものとなっています。



曾根干潟だけじゃない!響灘にもいたカブトガニ



カブトガニ

※画像提供:北九州市環境科学研究所

左の画像は平成元年度に行なわれた北九州市による洞海湾総合調査の際に採集されたカブトガニの画像です。北九州のカブトガニは曾根干潟ばかりに注目が向きがちですが、かつては曾根干潟が位置する周防灘ばかりでなく響灘一帯にも広く生息していたそうです。また紫川の河口やその周辺の海岸でも昔はたくさんのカブトガニをみることができたという複数の証言も得られています。

現在では水質の改善が進む一方、海岸の埋め立てや浚渫により残念ながらカブトガニが暮らせる環境はほとんど残っておらず、この個体が採集されて以降も新たな個体は発見されていません。

なくなった環境が元通りになれば戻ってくるかな??



移り変わる洞海湾



1920年代の洞海湾と響灘



1970年代の洞海湾と響灘

50年後

海岸線にも干拓地がたくさんできたよ



ENDANGERED!! カブトガニに危機訪れる! ENDANGERED!!

カブトガニの将来にとって心配な光景が...



今年(2019年)は6月から8月までに延べ1995番(つがい)もの産卵が確認された曾根干潟のカブトガニ。しかし講座の最中砂浜には衝撃的な光景が。砂浜に並べられたたくさんのカブトガニの死骸(写真右)、その数300個体余り。8月末の時点でその数は490個体にも増え新聞等でも大きく報道されました。講座の特別講師「日本カブトガニを守る会」の高橋俊吾先生のお話によると例年(50~60個体)と比べても今年は死んで打ち上げられる個体の数が明らかに多くその死因も未だに特定できていません。曾根干潟には現在推定で約2400個体が生息しているのではと考えられています。しかしその2割にもあたる数が死んでしまったことで将来的に曾根干潟のカブトガニは激減してしまうのではと心配されています。更に近年曾根干潟では底質の変化、大雨

のたびに川から流れてくる漂流ゴミの堆積、春に異常発生する海藻が腐敗することでの環境悪化が度々指摘されこの心配に拍車をかけています。繁殖できる大きさになるまでに少なくとも10年かかるとされるカブトガニにとって健全な干潟の環境が永く安定して続くことは何より不可欠です。これまでその日本有数の生息数を誇ってきた曾根干潟は北九州の自然遺産と言っても過言ではありません。現在この北九州の「ハチガメの海」を未来に引き継ぐため高橋先生はじめボランティアの方たちにより干潟の清掃活動や観察会が行なわれています。この記事を読んだ読者のみなさんも是非このような活動に参加されてみてはいかがでしょうか。一人でも多くの方が興味を持ってもらうことで、この北九州の貴重な自然を守る大きな力になるのです。

出典:国土地理院ウェブサイト
http://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1

地図を見比べて見ると50年の間に洞海湾は大きく様変わりしているのがよくわかります。現在では細長い水路のようになり大型船が行きかうこの湾も昔は干潮時には広大な干潟が広がる遠浅の海だったのです。この当時にはカブトガニだけでなく、今では絶滅が心配されるほど少なくなってしまった生き物たちもきっとたくさん見られたことでしょう。

戦後北九州市は産業都市として目まぐるしい発展を遂げ日本の高度経済成長期を支えてきました。しかしそれと引き換えに失ってしまったものの大きさは計り知れないものがあります。そして現在では環境モデル都市として世界をリードするまでになった北九州市。「産業」と「環境」この二つが上手く共存できる街づくりが今後更に進んでいくことを期待したいですね!